

(案)

**リニモ沿線地域づくり
重点プラン 2016-2020(仮称)**

～住みたくなる・訪れたくなる沿線を目指して～

2016年 月

愛知県

瀬戸市

豊田市

日進市

長久手市

目 次

第1章 策定の趣旨	1
1 策定の背景と目的.....	1
2 取組年次.....	1
3 対象地域.....	2
第2章 地域づくりの現況と今後の方向	3
1 リニモ沿線地域の特性.....	3
2 これまでの取組状況.....	4
3 沿線を取りまく時代の潮流.....	7
4 重点プランの基本的な視点.....	10
第3章 重点戦略と主要施策	11
1 住みたくなる沿線づくり.....	12
重点戦略1 集約型まちづくりと自然環境の保全.....	12
重点戦略2 地域づくり活動の活性化.....	23
2 訪れたくなる沿線づくり.....	26
重点戦略3 観光やイベントによる交流の推進.....	26
重点戦略4 研究開発機能の充実.....	35
3 住みたくなる・訪れたくなる沿線づくりを支える交通基盤.....	38
重点戦略5 交通基盤とネットワークの強化.....	38
4 主な取組エリア.....	43
参考 リニモ沿線概況図.....	44

第1章 策定の趣旨

1 策定の背景と目的

リニモ沿線地域は、名古屋東部丘陵に位置し、環状・放射線状交通の結節点として尾張と三河を結ぶ重要な地域であるとともに、多数の大学・試験研究機関が立地し、研究・創造の拠点となっているなど、今後の名古屋大都市圏の発展を先導する地域である。また、2005年（平成17年）には愛・地球博が開催され、万博後においても、その理念の継承・成果を発信する地として、重要な役割を担っており、自然環境に恵まれ、環境負荷の低いリニモが整備されたこの地域は、リニモを軸に自然環境と共生した集約型まちづくり、新たなライフスタイルに対応するまちづくりのモデルとしてふさわしい地域である。

こうした中で、沿線の高いポテンシャルを生かし、さらなる発展につなげるため、愛知県及び沿線市（瀬戸市、豊田市、日進市、長久手市）は、2009年（平成21年）3月、「リニモ沿線地域づくり構想（以下「構想」という。）」を策定した。

構想には、2025年（平成37年）頃を展望する将来像として「愛・地球博の成果を継承・発展させるまち」、「愛知の新たな飛躍をリードする研究学園地区」、「リニモでつながる『コンパクト』なまち」の3つを掲げ、2015年（平成27年）までの7年間に取り組む主要施策を明示し、自然環境の保全に配慮した計画的な市街地の整備や沿線施設の整備を進めるとともに、公共交通ネットワークの充実や沿線大学の学生・NPO等と協働したまちづくりに取り組んできた。

これまでの取組により、展望した将来像の姿が着実に形になってきているが、今回、この構想における主要施策が取組の目標年次を迎えることから、将来像を展望した地域づくりの新展開に向けて、県と沿線市が取り組むべき指針としての「リニモ沿線地域づくり重点プラン2016-2020」を策定する。

2 取組年次

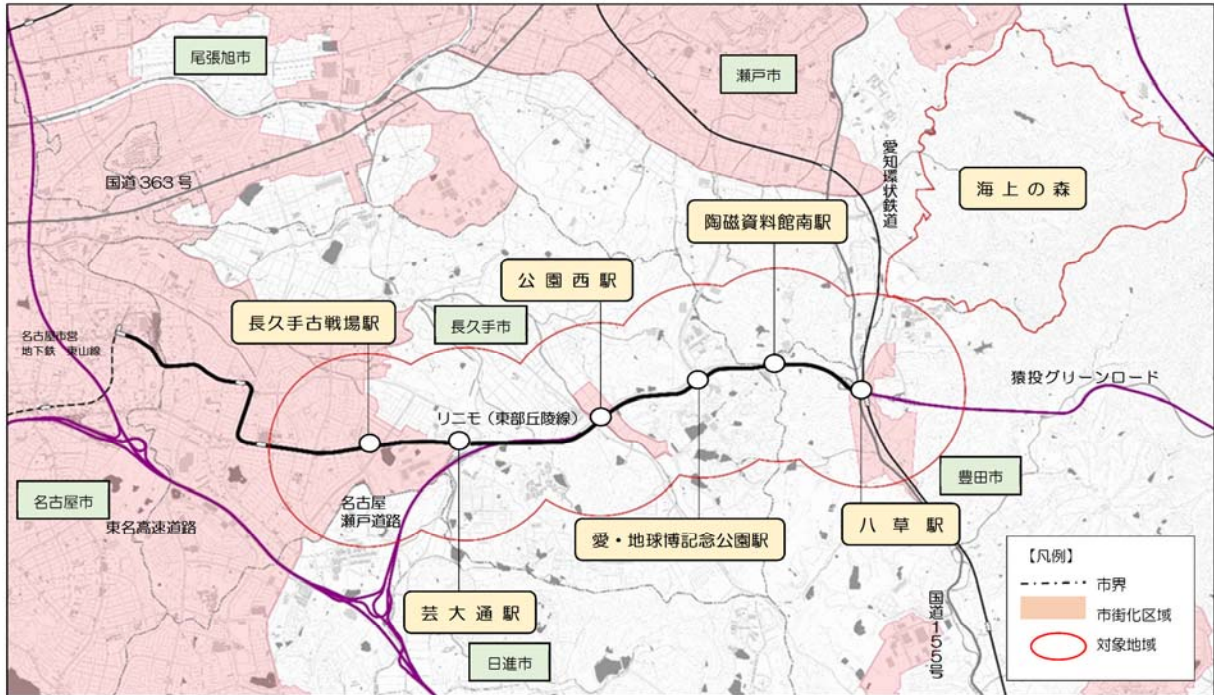
本プランは、2025年（平成37年）頃までの将来像を展望しつつ、2016年（平成28年）から2020年（平成32年）までを取組年次とする。

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	
構想	展望する3つの将来像と9つの基本方針 「愛・地球博の成果を継承・発展させるまち」 「愛知の新たな飛躍をリードする研究学園地区」 「リニモでつながる『コンパクト』なまち」																	
	14の基本戦略 36の主要施策																	
本プラン								5つの重点戦略 15の主要施策										

3 対象地域

地域づくりを計画的に誘導していくことが必要な「長久手古戦場駅」から「八草駅」までの6つの駅周辺（概ね1km圏）及び愛・地球博の理念継承の場である「海上の森」を主な対象地域とする。

< 構想及び本プランの対象地域 >



(参考)

< 2025年（平成37年）頃を展望する将来像 >

◆愛・地球博の成果を継承・発展させるまち

環境共生型の暮らしが根付き、文化・レクリエーション施設等に人々が賑やかに集い、楽しく交流し、新しい地球市民交流・市民活動が生まれるような万博の理念や成果をさらに具体化するまち。

- 基本方針1 環境共生型の暮らしが根付くまちづくり
- 基本方針2 文化・レクリエーション施設等に人々が賑やかに集い、楽しく交流するまちづくり
- 基本方針3 新しい地球市民交流・市民参加活動が生まれるまちづくり
- 基本方針4 環境分野等の先進的取組を通じ、課題に挑戦しつづけるまちづくり

◆愛知の新たな飛躍をリードする研究学園地区

大学や研究機関等の活発な相互連携や研究交流が行われ、研究成果等を世界に向けて積極的に発信していくことで、本地域のみならず愛知県や中部圏全体の成長と新たな飛躍をリードしていく研究学園地区。

- 基本方針5 最先端の科学技術の共同研究や研究交流が行われ、世界に発信するまちづくり
- 基本方針6 地域内外の大学・研究機関の相互連携、研究交流が盛んなまちづくり

◆リニモでつながる「コンパクト」なまち

駅周辺に豊かな自然と調和した特色ある住宅地や都市機能がまとまり、自動車や公共交通、自転車、徒歩等をかしく使い分けるライフスタイルを実現し、環境への負荷を低減した持続可能なまち。また、コンパクトにまとまった特色あるまちがリニモでつながり、沿線全体として他地域にはない大きな魅力が生まれ出されるモデル的なまち。

- 基本方針7 駅ごとに特色ある都市機能が集積したまちづくり
- 基本方針8 駅と背後圏が有機的に連携したまちづくり
- 基本方針9 活発なコミュニティにより持続的に発展するまちづくり

第2章 地域づくりの現況と今後の方向

1 リニモ沿線地域の特性

(1) 充実した広域的な交通ネットワーク ～“交通条件”の優位性～

愛・地球博の開催を契機として、鉄軌道ではリニモの開業や愛知環状鉄道の一部複線化が行われ、道路では名古屋瀬戸道路や東海環状自動車道が整備されるなど、広域的な交通ネットワークの形成・充実が進んでおり、交通利便性の高い地域である。

(2) 大都市近郊の豊かな自然環境 ～“自然環境”の優位性～

名古屋東部丘陵に位置し、名古屋市に近接した利便性の高い場所であるにもかかわらず、優良な田園地帯が広がり、その東部には海上の森をはじめ多くの森林が残る、豊かな自然環境に恵まれた地域である。

(3) 愛・地球博を継承する施設群と活動 ～“愛・地球博開催地”の優位性～

愛・地球博記念公園（モリコロパーク）、あいち海上の森センター、瀬戸万博記念公園（愛・パーク）が立地し、愛・地球博の理念・成果を発信する拠点として、愛知県の地域づくりにおいて重要な位置を占めている。また、愛・地球博記念公園内に整備された「地球市民交流センター」では、愛・地球博によって育まれた市民交流活動が活発に行われるなど、市民活動への意識の高い人達が集結する地域である。

(4) 大学や研究機関の高密度な集積 ～“学術研究機能集積”の優位性～

沿線には愛知県立大学、愛知県立芸術大学が立地するほか、周辺も含め多くの大学が集積している。また、試験研究機関も愛知県農業総合試験場や豊田中央研究所が立地するほか、「知の拠点あいち」が整備され、人材育成や研究開発等の愛知の活力の維持・向上に欠くことのできない重要な役割を担っている地域である。

(5) 名古屋市東部から延びる文化・居住エリア ～“居住環境”の優位性～

名古屋都市圏の東の外縁に位置し、名古屋市東部から連なる良好な市街地を土地区画整理事業等で新たに形成してきており、全国的には人口減少の流れの中にもありながらも、この地域は子育て世代等を中心に人口が増加している。また、大学の集積、愛・地球博記念公園、愛知県陶磁美術館、トヨタ博物館、長久手古戦場公園等の多くの文化・レクリエーション施設が立地し、文教地区としてのイメージを有している。

2 これまでの取組状況

(1) 計画的な市街地の整備

自然環境の保全に最大限配慮し、リニモ駅を中心に概ね1km圏内で、土地地区画整理事業や地区計画制度による計画的な市街地の整備に取り組んでいる。

具体的には、長久手古戦場駅周辺の長久手中央土地地区画整理事業や公園西駅周辺の公園西駅周辺土地地区画整理事業に着手し、宅地の整備や道路、駅前広場等の都市基盤施設の整備を進めている。

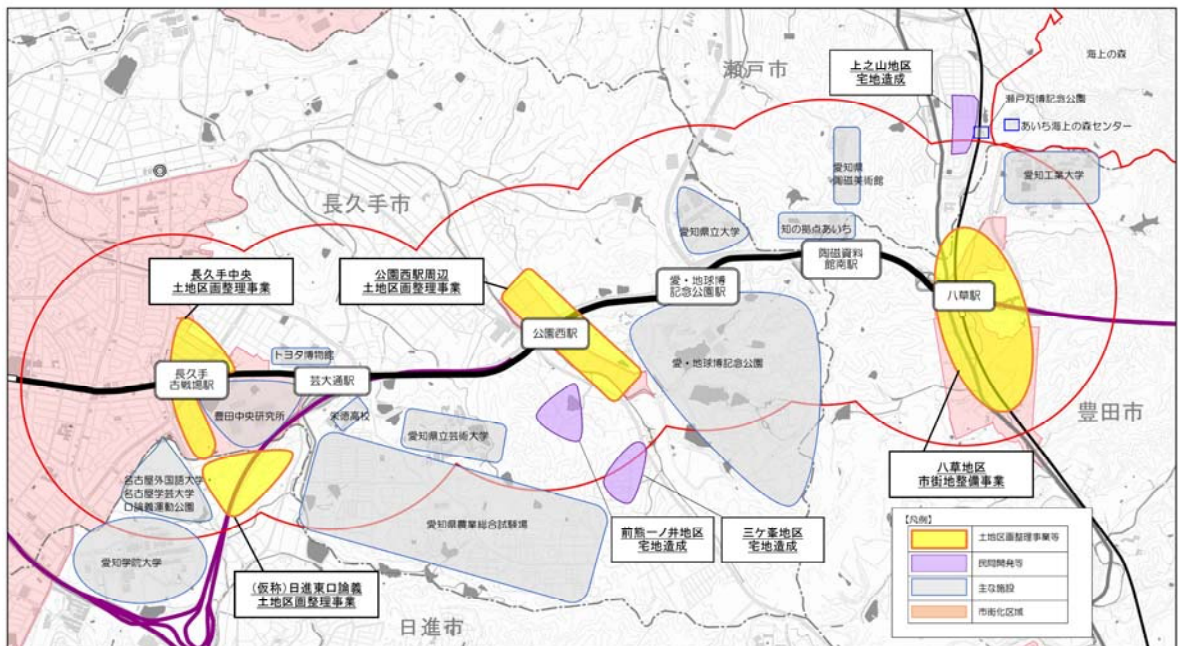
また、長久手古戦場駅と芸大通駅に近接し日進市の「北のエントランス」として位置づける日進東口論議地区や、豊田市の八草駅周辺地区においても、市街地整備に向けた調整を行なっている。

このほか、民間開発として、公園西駅周辺の三ヶ峯地区や八草駅周辺の上之山地区では宅地分譲が開始され、公園西駅周辺の前熊一ノ井地区でも宅地造成が進んでいる。

＜市街地整備の取組状況＞

		2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
長久手古戦場駅	長久手中央土地地区画整理事業	●イオンの選定	●事業認可、組合設立 ●イオンモール(株)		●仮換地指定	●長久手中央地区計画決定		
長久手古戦場駅 /芸大通駅	(仮称)日進東口論議土地地区画整理事業		●世話人会結成		●仮同意書収集開始			●事業計画(案)作成
公園西駅	公園西駅周辺土地地区画整理事業					●事業計画決定 ●イクア・ジャパン(株)の選定	●仮換地指定 ●公園西駅周辺地区計画決定	
	民間開発				●三ヶ峯地区計画決定 ●三ヶ峯地区分譲開始		●前熊一ノ井地区計画決定	
八草駅	八草地区市街地整備事業						●構想図作成 (まちづくり推進委員会)	
	民間開発					●上之山地区計画決定	●上之山地区分譲開始	

＜市街地整備の箇所図＞



(2) 沿線施設の整備

愛・地球博記念公園では、野球場やサイクリングコースなどの運動施設や 1 万人規模のコンサートができる野外音楽施設を整備したほか、博覧会の理念と成果を継承する 21 世紀にふさわしい都市公園として地球市民交流センターを整備し、市民活動の新たな拠点として NPO 等の活発な活動が展開されている。

また、陶磁資料館南駅に隣接する「知の拠点あいち」では、最先端の研究開発環境を備えた拠点として、「あいち産業科学技術総合センター」や「あいちシンクロトロン光センター」及び「新エネルギー実証研究エリア」を整備し、既存産業の高度化や次世代産業の創出を図るため、産学行政が連携した共同研究開発プロジェクト等を進めている。

さらに、長久手中央土地区画整理事業や公園西駅周辺土地区画整理事業において、商業街区の事業予定者として、イオンモール株式会社、イケア・ジャパン株式会社を選定し、大型商業施設の出店に向けた調整を行っている。

< 沿線施設の供用開始状況 >

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
愛・地球博記念公園	●野球場 ●あいちアートスクエア	●地球市民交流センター		●サイクリングコース ●テニスコート ●フットサル場 ●多目的球技場		●あいちサトラボ「農のエリア」	●野外音楽施設 ●公園西駅ロケットゲート
知の拠点あいち			●あいち産業科学技術総合センター	●あいちシンクロトロン光センター			●新エネルギー実証研究エリア



愛・地球博記念公園
地球市民交流センター



愛・地球博記念公園
野外音楽施設



あいちシンクロトロン光センター

(3) 公共交通ネットワークの充実

リニモ沿線には、乗合バスや沿線市のコミュニティバスが運行し、長久手古戦場駅や八草駅では、行政区域を越えたコミュニティバスの運行も行なっている。

また、N-バス（長久手市）やくるりんばす（日進市）におけるバスロケーションシステム¹の導入、リニモと愛知環状鉄道の乗換利便性向上のためのダイヤ改正、愛・地球博記念公園駅や八草駅でのパーク＆ライド駐車場²の設置・拡充、沿線住民や学生に対する公共交通への利用転換を促すモビリティマネジメント³の実施等、公共交通の利便性向上や利用促進に取り組んでいる。

¹ バスの運行情報を携帯電話やパソコンから確認することができるシステム

² 駅やバス停までクルマで行き、そこから公共交通に乗り換えて移動するパーク＆ライドを推奨する駐車場

³ コミュニケーションにより個人や企業に交通行動を見直してもらい、自動車の効率的利用や公共交通への利用転換を促す方策

さらに、交通系 IC カードの普及や IC カードシステムの相互利用が進む中、リニモにおいても交通系 IC カード「manaca」の導入を決定し、2016 年（平成 28 年）春から、全ての駅において交通系 IC カードが使用可能となる。



愛・地球博記念公園北パーク&ライド駐車場
（駐車可能台数：246 台）



八草駅前パーク&ライド駐車場
（駐車可能台数：170 台）

（４）多様な主体が参画する地域活性化の取組

沿線地域の活性化に向けて、沿線大学の学生や NPO と協働して沿線の歴史や文化・芸術等の資源を生かしたまちづくりの調査研究や交流イベントを開催するほか、沿線の文化・レクリエーション施設、試験研究機関等と連携したイベントを開催するなど、地域が一体となった取組を進めている。



リニモ沿線合同大学祭
リニモ沿線大学の学生が“助けを求め合えるまち”を目指して、地域住民・沿線施設・地域店舗と共に作りあげるイベント



リニモクリスマストレイン
車内をイルミネーションで装飾して運行。飾り付けや車内アナウンスを NPO と連携して実施



リニモでハロウィーン
NPO が企画したリニモ駅と沿線施設を巡るイベントラリー。ラリーポイントでは参加者と学生ボランティア等が交流



リニモウォーキング
沿線の自然や名所、文化、観光施設等を巡り沿線の魅力に触れるイベント。「せと・まるっとデジタルまつり」などの周辺イベントとも連携



トヨタ博物館 クラシックカー・フェスティバル
クラシックカーファン醸成を通じた自動車文化の継承、地域との連携を深めるためのイベント。
写真提供：トヨタ博物館



土どろ・ウォーキング
愛知県児童総合センターと愛知県陶磁美術館が連携して実施する小・中学生を対象とした特別イベント

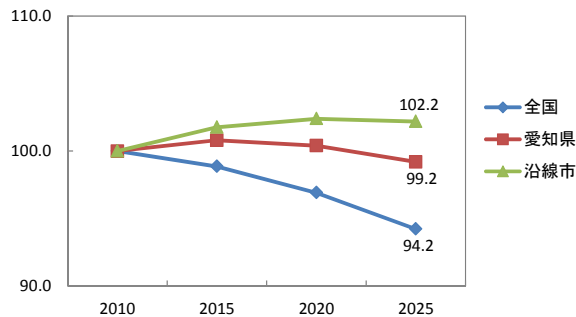
3 沿線をとるまく時代の潮流

(1) 地方創生の流れ

地方自らが地域資源を掘り起こし、活用することで、活力ある地域社会を創生し、地方への新たな人の流れを生み出す地方創生の取組が全国で進められている。地方創生では、「都市のコンパクト化と周辺等の交通ネットワーク形成」、「地方大学の活性化」、「まちづくりにおける地域連携や人材の育成・確保」などの取組が掲げられている。

リニモ沿線地域は、子育て世代を中心に、人口増加が続いているが、引き続き、充実した広域交通ネットワークや大都市近郊の地理的優位性を生かし、良好な住宅地の形成や沿線大学やNPO等の様々な団体と連携・協働し、多様な世代のアイデアを取り入れながらまちづくりに取り組み、地域の発展を牽引していくことが重要である。

＜沿線市と全国・県の将来推計人口＞
(2010年を100とした場合)



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2013年3月推計）」から作成

(2) リニア中央新幹線（東京－名古屋間）の事業着手

リニア中央新幹線（東京－名古屋間）が、2027年度（平成39年度）の開業に向け整備が進められている。リニア中央新幹線の開業により、首都圏との時間的な距離が飛躍的に短縮され、首都圏から中京圏に及ぶ範囲で、人口5千万人規模の巨大なリニア大交流圏が誕生することとなる。

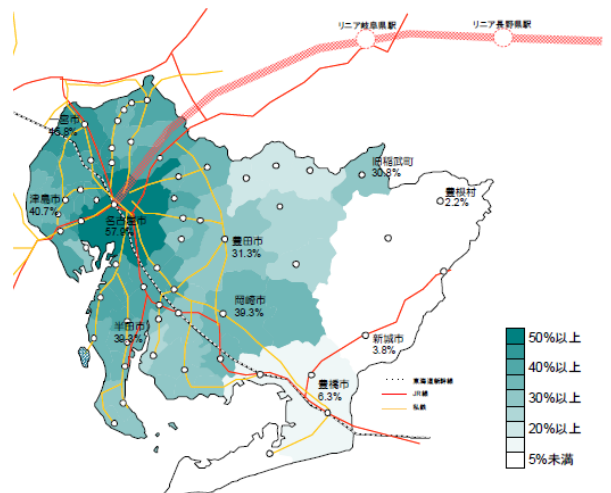
リニモ沿線においても、リニア開業のインパクトを受け止められるよう、2027年度の開業を見据え、沿線の魅力づくりに取り組んでいくことが重要である。

＜リニア開業による所要時間の変化＞
～市町村と品川駅間の所要時間の短縮率～

	現状		リニア開業	
	所要時間 (分)	最短所要時間 (分)	変化量 (分)	短縮率
名古屋市	95	40	-55	57.9%
瀬戸市	155	100	-55	35.5%
豊田市	160	110	-50	31.3%
日進市	145	90	-55	37.9%
長久手市	135	80	-55	40.7%

注：岐阜県、長野県の間接駅の利用を考慮しない場合のこと
資料：愛知県「リニア中央新幹線影響等調査（H24）」から作成

【リニア開業時（中間駅考慮なし）】注

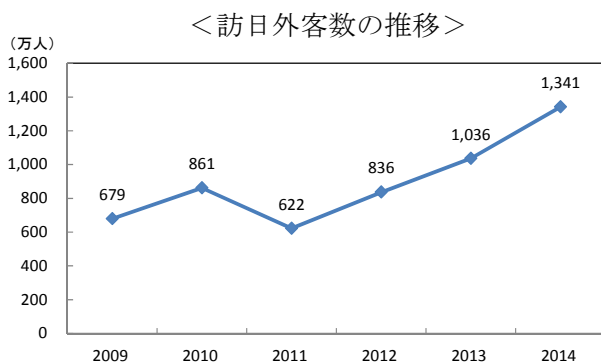


(3) 訪日外国人の増加に向けた取組

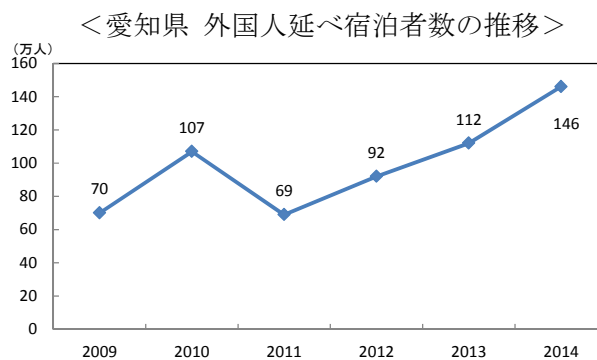
国は訪日外国人の年間 2,000 万人達成を目標に掲げ、観光立国の実現に向けた取組を進めている。そうした中、アジアからの訪日を中心に増加傾向が続き、2010 年（平成 22 年）の 861 万人から 2014 年（平成 26 年）の 1,341 万人へと 1.5 倍を超える伸びを示している。

このように増加を続ける訪日外国人を確実に取り込むために、愛知県では、キャッチワードやロゴマークを作成するなどの PR と受入体制を強化し、来県客数の増加と満足度、安心度の向上を図っている。また、中部圏では、2012 年（平成 24 年）3 月、自治体、観光関係団体、観光事業者等が協働して、「昇龍道プロジェクト」を立ち上げ、海外からの誘客を図っている。

リニモ沿線周辺においても、やきものや自動車産業といった「日本のモノづくり」をテーマに海外からの誘客を促進しているが、今後も、沿線の観光資源の魅力を向上させ、海外からの誘客を一層進めていくことが重要である。



資料：日本政府観光局
「年別 訪日外客数、出国日本人数の推移」



※調査対象は、従業者数 10 人以上の宿泊施設
資料：観光庁「宿泊旅行統計」

(4) 大規模スポーツイベントによる地域振興の取組

「2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」の開催が決定し、スポーツ大会を契機とした地域活性化の取組が注目されている。

愛知県では、2015 年（平成 27 年）4 月に「あいちスポーツコミッション」を設立し、全国・世界に打ち出せるスポーツ大会の招致、育成を目指すとともに、スポーツ大会が持つ情報発信力や集客力を地域の活性化につなげる取組を行っている。

沿線には、愛・地球博記念公園や名古屋外国語大学・名古屋学芸大学口論義運動公園が、そして沿線周辺には豊田スタジアムやスカイホール豊田等の競技施設があり、国際的な大会から市民参加の大会まで幅広く開催されている。とりわけ、豊田スタジアムは、「ラグビーワールドカップ 2019」の会場のひとつであり、開催時には国内外から多くの観戦客が訪れることが想定される。こうしたスポーツ大会への参加者や観戦客を沿線地域に取り込んでいくことが重要である。

＜沿線及び沿線周辺の主なスポーツ施設＞

	愛・地球博記念公園	名古屋外国語大学・名古屋学芸大学 口論義運動公園
スポーツ 施設		
主な大会 実績	中部フィギュアスケート選手権大会 国際ジュニアグランプリフィギュアスケート競 技大会 愛知県市町村対抗駅伝競走大会	日本マスターズ水泳 長距離大会 クラブカップU-14 全日本大学女子サッカー選手権東海地区予選
	豊田スタジアム	スカイホール豊田
スポーツ 施設		
主な大会 実績	サッカー Jリーグ FIFA クラブワールドカップ ラグビートップリーグ	豊田国際体操競技大会 バスケットボール女子日本リーグ ナショナルバスケットボールリーグ ワールドチャレンジテニストーナメント

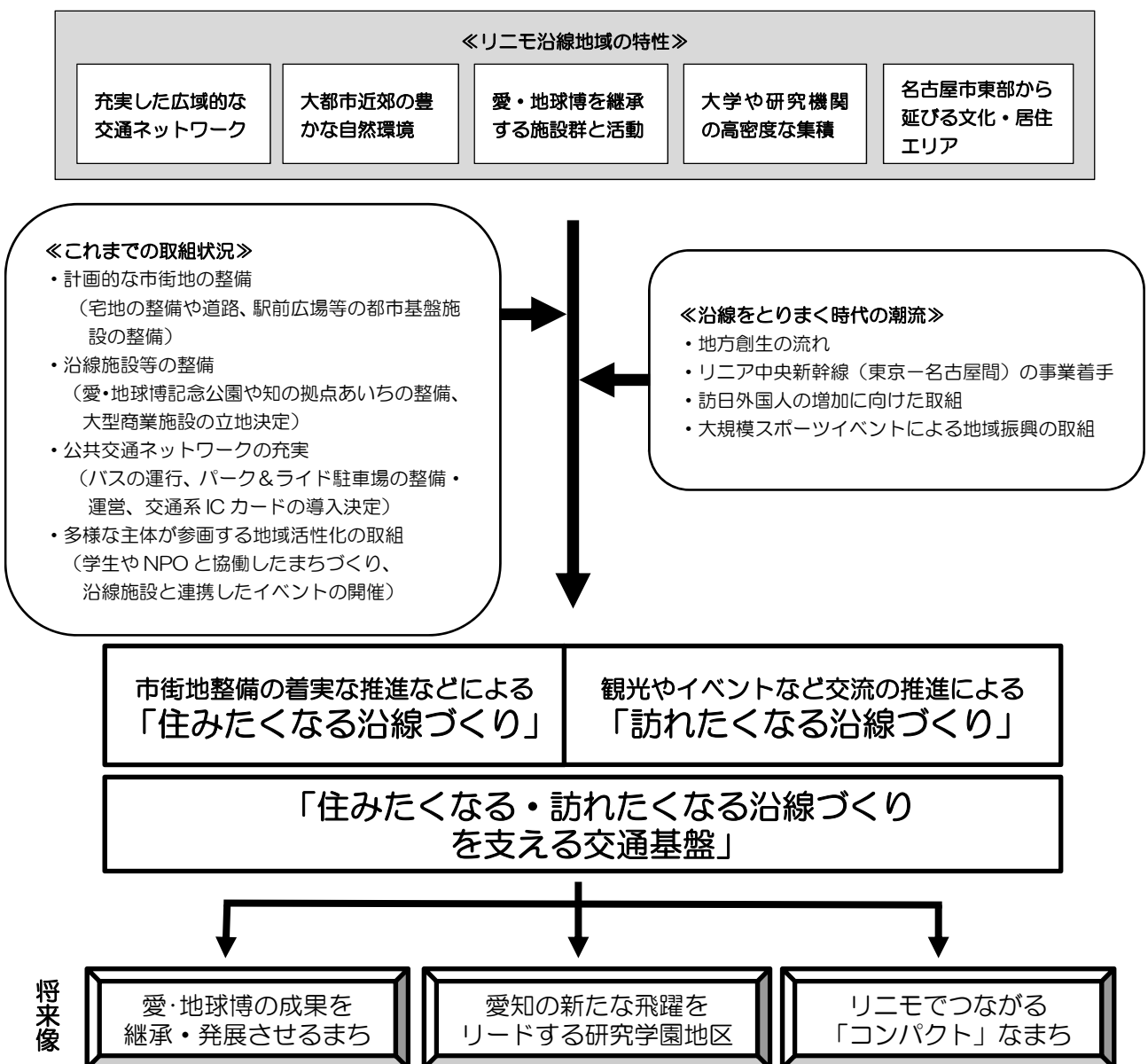
4 重点プランの基本的な視点

これまで構想で掲げた将来像の実現に向けて、各駅を中心とする概ね1km圏内の「居住人口」の増加や、通勤・通学、沿線施設への誘客等「交流人口」の増加に資する取組を行ってきた。

構想策定から7年を経て、駅周辺において自然環境の保全に配慮した計画的な市街地整備により、着実に、宅地や商業施設、公共施設の整備を進め、このため、駅周辺の新たな開発適地は少なくなってきた。一方で、地方創生や訪日外国人増加等の動きがある中、新たな人の流れが注目されている。

そこで、今後5年間は、「居住人口」を増やすための市街地整備の推進はもとより、広域的な観光に着目した「交流人口」の増加に資する取組に軸足を置き、「住みたくなる沿線づくり」、「訪れたくなる沿線づくり」、「住みたくなる・訪れたくなる沿線づくりを支える交通基盤」をキーワードに、その重点的に取り組むべき施策を本プランでとりまとめる。

＜重点プランの基本的な視点のイメージ図＞



第3章 重点戦略と主要施策

重点プランの基本的な視点をふまえ、将来像の一層の具体化に向けた5つの「重点戦略」、15の「主要施策」を示す。

【将来像】	◆愛・地球博の成果を継承・発展させるまち
	基本方針1 環境共生型の暮らしが根付くまちづくり
	基本方針2 文化・レクリエーション施設等に人々が賑やかに集い、楽しく交流するまちづくり
	基本方針3 新しい地球市民交流・市民参加活動が生まれるまちづくり
	基本方針4 環境分野等の先進的取組を通じ、課題に挑戦しつづけるまちづくり
	◆愛知の新たな飛躍をリードする研究学園地区
	基本方針5 最先端の科学技術の共同研究や研究交流が行われ、世界に発信するまちづくり
	基本方針6 地域内外の大学・研究機関の相互連携、研究交流が盛んなまちづくり
	◆リモでつながる「コンパクト」なまち
基本方針7 駅ごとに特色ある都市機能が集積したまちづくり	
基本方針8 駅と背後圏が有機的に連携したまちづくり	
基本方針9 活発なコミュニティにより持続的に発展するまちづくり	

住みたくなる沿線づくり (主に居住人口増加につなげる取組)	訪れたくなる沿線づくり (主に交流人口増加につなげる取組)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【重点戦略1】 集約型まちづくりと自然環境の保全 </div> <p>(主要施策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①駅を中心とした概ね1km圏内の計画的な市街地整備の推進 ②市街化を進める地域の機能充実 ③森林・農地等の緑の適正な維持管理 ④水や緑のネットワーク形成の推進 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【重点戦略2】 地域づくり活動の活性化 </div> <p>(主要施策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑤沿線住民や沿線大学・学生と協働した地域づくり ⑥市民活動の活性化 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【重点戦略3】 観光やイベントによる交流の推進 </div> <p>(主要施策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑦愛・地球博記念公園の充実強化 ⑧地域資源の活用による魅力向上 ⑨広域連携による観光の推進 ⑩沿線情報の一体的な発信 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【重点戦略4】 研究開発機能の充実 </div> <p>(主要施策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑪国機関等の研究施設の誘致 ⑫先端研究開発や実証研究の推進
住みたくなる・訪れたくなる沿線づくりを支える交通基盤	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【重点戦略5】 交通基盤とネットワークの強化 </div> <p>(主要施策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑬公共交通の利便性の向上 ⑭道路交通網の形成 ⑮「エコ モビリティ ライフ」の推進 	

1 住みたくなる沿線づくり

重点戦略1 集約型まちづくりと自然環境の保全

リニモ沿線は自然が豊かな地域であり、環境をテーマにした愛・地球博の開催地でもあることから、その理念を継承したまちづくりが求められる。そのため、環境と共生したライフスタイルや過度に自動車に頼らないライフスタイルを体現できる、「開発」と「保全」の調和したモデル的なまちづくりに向け、駅を中心とした市街地整備の推進を図るとともに、森林・里山の保全や身近な緑、水辺を親しめる空間づくりに取り組む。

【主要施策】

①駅を中心とした概ね1km圏内の計画的な市街地整備の推進

長久手古戦場駅、芸大通駅、公園西駅、八草駅周辺において、駅を中心に概ね1km圏内の計画的な市街地整備を推進する。特に、駅から概ね400m（徒歩5分）圏内については、宅地としての優位性が高いことから、集合住宅を含め、密度の高い市街地の形成を図るなど、徒歩でも日常生活が成り立つような集約型まちづくりを進める。

（土地区画整理事業等の推進）

- ・ 長久手古戦場駅及び公園西駅周辺で実施中の土地区画整理事業を着実に推進し、良好な宅地を整備・誘導する。
- ・ 日進市の「北のエントランス」として計画が進んでいる日進東口論義地区では、地元合意形成等を進め土地区画整理事業の事業化を図るほか、八草駅周辺では、市街地整備に向けた検討を行なう。

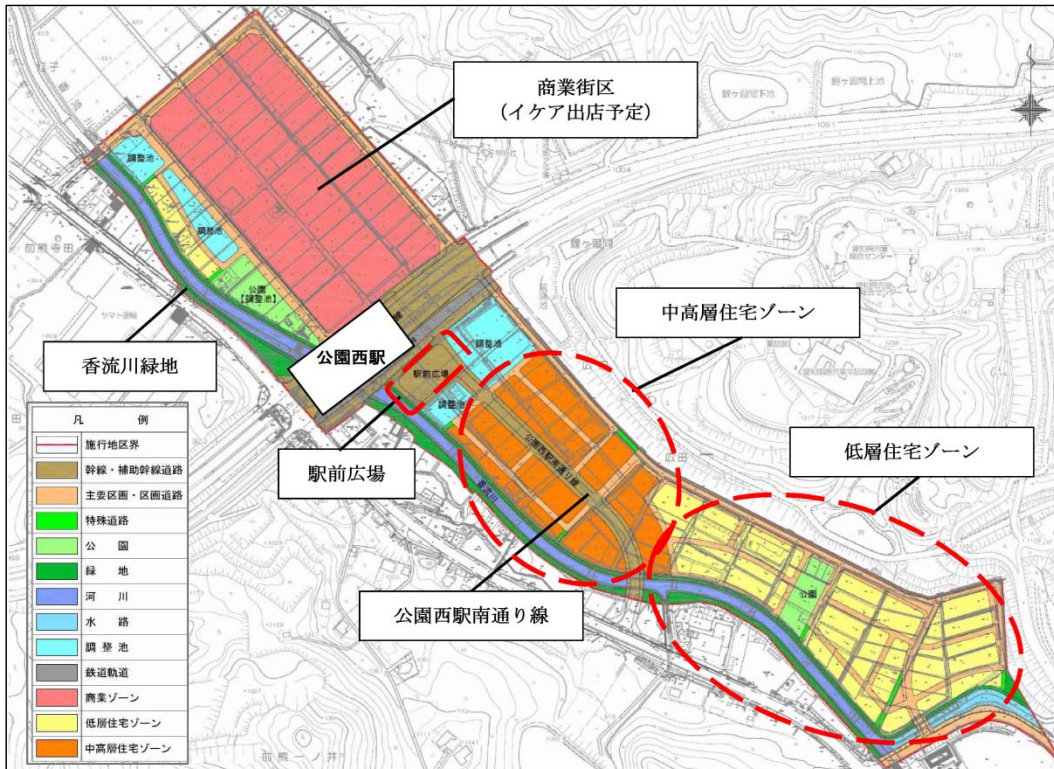
＜土地区画整理事業等の取組状況＞

駅	取組	整備面積	取組状況
長久手古戦場駅	長久手中央土地区画整理事業	約27ha	整備中
長久手古戦場駅 /芸大通駅	（仮称）日進東口論義土地区画整理事業	約27ha	検討段階
公園西駅	公園西駅周辺土地区画整理事業	約21ha	整備中
八草駅	八草地区における市街地整備事業	約51ha	検討段階

<長久手中央土地区画整理事業計画図 (2015年12月16日時点)>



<公園西駅周辺土地区画整理事業計画図 (2015年12月16日時点)>



< (仮称) 日進東口論議土地地区画整理事業構想図 >



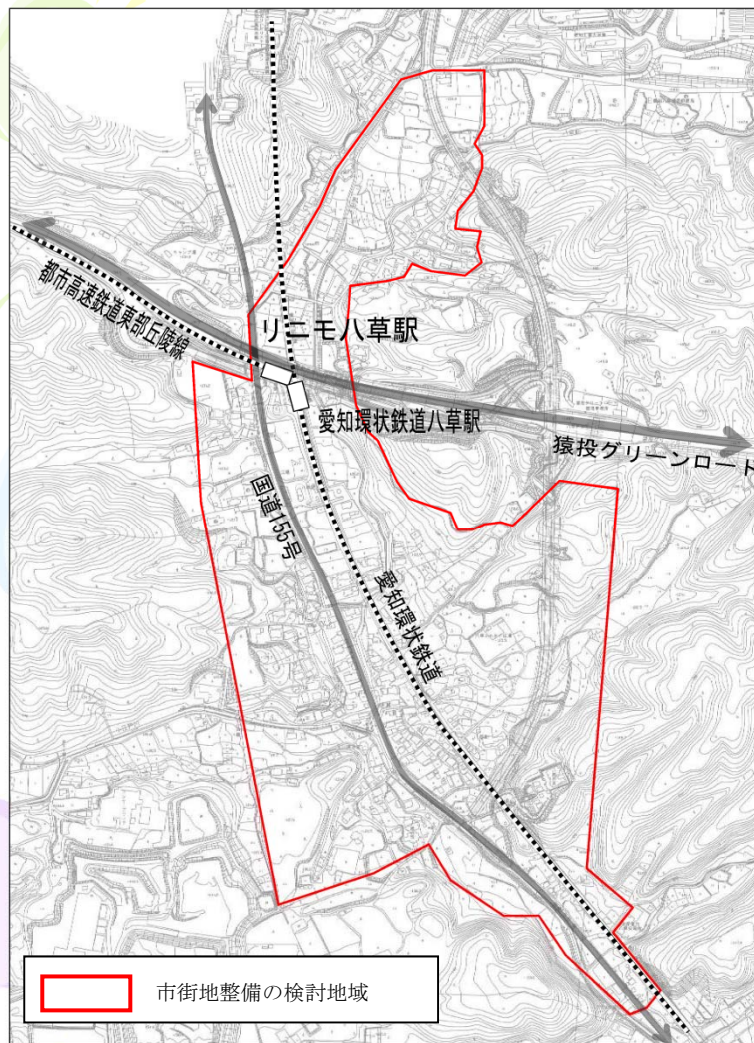
※構想図凡例

凡例	
	基本構想策定区域
	土地利用: 住居系
	土地利用: 低層住居系
	土地利用: 沿道系
	土地利用: 産業系
	幹線道路
	主要区画道路
	歩行者ネットワーク
	河川
	調整池
	公園・緑地
	墓地

< (仮称) 日進東口論議土地地区画整理事業イメージパース >



<八草地区における市街地整備の検討地域>

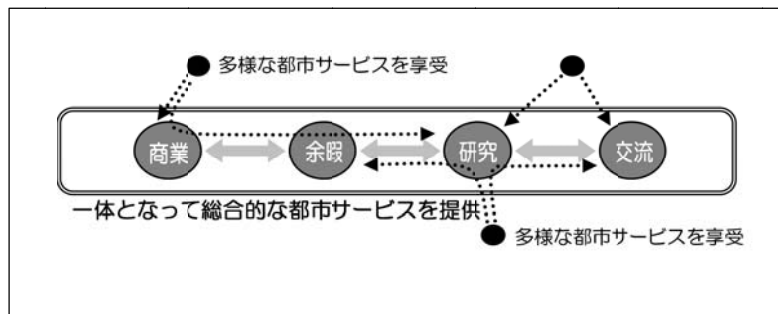


②市街化を進める地域の機能充実

リノモ沿線の各駅は、周辺の土地利用規制や交通条件等が異なる。そうした状況を十分踏まえ、沿線全体を総合的、一体的にとらえ、駅周辺への都市機能の集約的な配置を図ると同時に、居住・商業・文化・レクリエーション・研究等、それぞれの駅周辺が相互に機能分担をしながら沿線全体で都市機能を担うまちづくりを進める。

中でも長久手古戦場駅、公園西駅周辺においては、今後の居住者の増加を見据え、公共施設、商業施設、日常生活における利便施設等の多様な都市機能の集約を高める。

＜各駅周辺の機能分担イメージ＞



(リノモテラス構想の推進)

- ・ 長久手古戦場駅西側は既に市街地が広がり住宅や沿道商業施設が立ち並ぶほか、駅1km圏内には、愛知学院大学や豊田中央研究所、名古屋外国語大学・名古屋学芸大学口論義運動公園が立地している。また、駅周辺では、土地区画整理事業が進められており、今後、沿線地域の交流の拠点となっていく地域である。そこで、住民の日常の暮らしを支え、訪れる人をもてなす空間として、大学連携、観光交流、多文化共生等をテーマとした公益施設をはじめとしたリノモテラスを整備し、市民活動、大学・学生等によるプログラムイベントを展開するなど、シンボルコアとして新たな拠点を整備していく。

＜リノモテラス公共施設建設予定地＞



(古戦場公園の再整備)

- 古戦場公園は、羽柴秀吉と徳川家康が直接対決した唯一の合戦「小牧・長久手の戦い」の舞台の1つであり、周辺には色金山（いろがねやま）歴史公園、首塚、安昌寺（あんしょうじ）、岩崎城跡公園等、合戦の跡をたどることができる史跡が数多くある。古戦場公園の東側では、長久手中央土地区画整理事業が進められている。また、古戦場公園内にある長久手市郷土資料室は、老朽化が進んでいることもあり、地域の歴史・文化を継承し、郷土の歴史を学び親しむ場として、さらに、地域の観光資源としても魅力のある公園として、再整備する。

<古戦場公園再整備構想図>



(北のエントランス構想の推進)

- 日進東口論議地区は、日進市の「北のエントランス」として、隣接する長久手中央土地区画整理事業と相まって、リニモ駅を中心とした賑わいや活気のある「歩いて暮らせるまちづくり」を目指し、商店等の日常生活における利便施設をはじめとした多様な都市機能の立地を図っていく。

また、長久手古戦場駅や芸大通駅、名古屋瀬戸道路長久手インターチェンジに近接するという交通利便性の高さを生かし、産業系の大街区を設定し、企業の立地を誘導する。

(公園西駅周辺環境配慮型まちづくりの推進)

- ・ 公園西駅周辺土地区画整理事業では、公共交通の利便性を生かしながら豊かな自然環境と共生できる「環境配慮型のまちづくり」を目指し、商業事業者所有の太陽光発電設備を商業施設の屋根のほか、周辺の公共空間（駅前広場、調整池）に設置し、平常時は商業施設での電力として使用し、非常時は広く地域住民に電力を供給するなど、再生可能エネルギーの地産地消を目指す。

(商業施設と連携した地域づくり)

- ・ 長久手古戦場駅前にはイオンモールが 2016 年（平成 28 年）12 月にオープンを予定しており、公園西駅前にはイケアの出店も決まっております。両施設の開業に向けた調整を行う。
また、大型商業施設の立地は、来店者を始め、雇用の創出等、沿線地域内外からの新たな人の流れがうまれる。大型商業施設が作り出すブランドイメージや集客力を生かし、例えば、観光情報・地域情報の発信やイベント・展覧会等の交流の場として活用するなど、沿線地域の活性化に向けた商業施設との連携方策を検討する。

③森林・農地等の緑の適正な維持管理

愛・地球博の理念と成果を未来に向けて確実に継承し、さらに発展させるために、リニモ沿線を「身近な森林、農地、水辺等における自然環境の適正な保全のための取組等を促進する場」として活用するとともに、海上の森を「愛知万博記念の森」として将来にわたって保全・活用することで人と自然とが共生する社会の実現につなげていく。

(森林・里山の保全、希少動植物の保全)

- ・ 「海上の森」において、森林・里山の保全に取り組むとともに、シデコブシ等の希少な動植物の生息生育する環境を保全する。
- ・ 「あいち森と緑づくり税」を活用し、リニモ沿線の人工林の間伐、里山林の整備、都市の緑化等、行政やNPO等による森と緑の保全活動を推進する。
- ・ 東部丘陵地域には、シデコブシなどの東海丘陵要素植物群やハッチョウトンボなど多様な動植物が生息生育している。この自然環境を保全・再生していくため、東部丘陵生態系ネットワーク協議会⁴と連携・協働して、大学内の動植物の生息生育空間の保全・再生や生態系ネットワークの形成に取り組む。

<海上の森の概要>



⁴ 生態系ネットワーク（生息生育空間のつながりや適切な配置を考慮した上で、森林や緑地で野生生物の移動に配慮した連続性のあるネットワークを構築すること）の形成を推進するために、東部丘陵地域に立地する 23 大学が中心となって設立された協議会

(農のある暮らし・農のあるまちづくり)

- ・ 「農」の環境保全、癒し、健康・福祉、交流、教育等の多様な役割をまちづくりに生かし、市民が「農」を通して役割や居場所を見つけ、幸福に過ごすことができる「農のある暮らし・農のあるまち」の実現に向けて、遊休農地や空き地を利用して、高齢者や障害者等の多様な市民が農作業を通じて交流する「まちなか農縁事業」や、農に関わる取組（農地の斡旋事業、農楽校⁵の運営、農機具の貸し出し）を応援する「長久手あぐりサポート事業」を推進する。
- ・ 「農」と共生できる暮らしの創出を目指して、瀬戸市上之山団地内に 80 区画の市民菜園を設置しており、利用に向けて PR する。
- ・ 県土保全、水源かん養、景観形成等の農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮のために、地域の農業者等による水路、農道等の保全管理に係る共同活動への支援を行うことにより、担い手農家への負担軽減を図るとともに農地集積を後押しする。



まちなか農縁



長久手農楽校

⁵ 市民を対象とした「農業の基礎知識」から「実践的応用技術」まで学ぶことができる場

④水や緑のネットワーク形成の推進

リニモ沿線には豊かな自然資源（小河川、里山、保存樹等）があることから、それを生かしたライフスタイルの提案を行なうとともに、自然とふれあいながら気軽に散策できる回遊性のあるウォーキングロードやサイクリングロード等の整備を図り、人と自然の共生を体感できる水と緑のネットワーク形成を進める。

（香流川緑地の整備）

- ・ 公園西駅周辺は、三ヶ峯丘陵や田園、また愛・地球博記念公園が立地し、自然が残る緑あふれる地域であるとともに、三ヶ峯周辺に源を発した香流川が市街地に流れこむ場所であることから、安全かつ貴重な都市空間となるよう、香流川の近自然化と親水性を考慮した整備を行う。

また、香流川中上流部については、河川周辺を含めた生態系の場の拡大と豊かな自然景観の創出のために、河川堤防上に水辺林を整備するとともに、自然とふれあいながら気軽に散策でき、また憩いの場となるよう、緑道や広場を整備する。

<香流川緑地の整備イメージ>



公園西駅周辺



香流川中上流部

【主要施策一覧】 ～重点施策1 集約型まちづくりと自然環境の保全～

具体的な取組	2016	2017	2018	2019	2020	
①駅を中心とした概ね1km圏内の計画的な市街地整備の推進						
土地区画整理事業等の推進	長久手中央土地区画整理事業	造成工事・道路工事等			予定	事業完了
	公園西駅周辺土地区画整理事業	造成工事・道路工事等				
	(仮称)日進東口論議土地区画整理事業	土地区画整理事業の協議、手続きなど		→	土地区画整理事業施行(予定)	
	八草地区における市街地整備事業	市街地整備計画の具体化に向け地元や関係機関との調整				
②市街化を進める地域の機能充実						
リニモテラス構想の推進	公益施設整備の実施設計	整備	予	オ施設	定	ン
古戦場公園の再整備	現況測量、実施設計、整備					
北のエントランス構想の推進	企業立地の誘導等					
公園西駅周辺環境配慮型まちづくりの推進	土地区画整理事業の進捗に合わせた取組の導入					
商業施設と連携した地域づくり	イオンモール長久手の開店に向けた調整	開業予定 2016年12月				
	イケアの開店に向けた調整(開店時期未定)					
	商業施設との連携方策の検討					
③森林・農地等の緑の適正な維持管理						
森林・里山の保全、希少動植物の保全	海上の森の森林・里山保全、自然環境保全事業の実施 あいち森と緑づくり事業による里山林整備、都市緑化事業の実施 東部丘陵生態系ネットワーク協議会による生態系ネットワークの形成					
農のある暮らし・農のあるまちづくり	まちなか農縁事業、長久手あぐりサポート事業の実施 瀬戸市上之山団地の市民菜園の運営、利用に向けたPR 農業農村多面的機能支払事業による農業、農村の多面的機能の維持・向上					
④水や緑のネットワーク形成の推進						
香流川緑地の整備	整備計画推進会議の開催 水辺林の整備 近自然化等の整備					

重点戦略2 地域づくり活動の活性化

リノモ沿線に新たな住民を迎えて地域として発展していくためには、地域に対する愛着や地域の中で安心して暮らし続けられるコミュニティの形成が重要である。

そのため、持続可能なコミュニティの形成に向け、美化・緑化活動や防犯・安全活動、利便性の向上の取組等、地域住民が主体となったコミュニティ活動の育成に取り組む。

また、沿線地域と大学の交流を活発化し、大学が持つ知的資源や学生の視点、アイデアを地域づくりに生かすとともに、大学の研究やフィールドワークにおいてもリノモ沿線を活用していく。

さらには、愛・地球博記念公園内の「地球市民交流センター」等における活発な市民活動を促進し、市民力の充実・発展に取り組む。

【主要施策】

⑤沿線住民や沿線大学・学生と協働した地域づくり

沿線地域の魅力の創出に向け、沿線住民や沿線大学及びその学生と連携して、まちとしてのブランド、魅力的な街並み、特定の世代に偏らない持続可能なコミュニティの形成等の地域づくりを進める。

(沿線住民と協働した地域づくりの推進)

- ・ リノモ沿線の地域づくりにおいては、環境問題、防災、緑化、福祉、子育てなど住民の自主的な活動が重要である。沿線住民の地域づくりへの関心を高め、地域づくりへの参画を促すとともに人材の育成を図るため、ワークショップやシンポジウムを開催する。
- ・ 市街地整備に向けた検討を行っている八草駅周辺地区では、八草地区の将来を考えた安全・安心な生活環境の形成や駅周辺の活性化を目指し、引き続き、八草まちづくり推進委員会において、住民が主体となったまちづくりに取り組む。

(沿線大学・学生と協働した地域づくりの推進)

- ・ 沿線市では、大学の持つ知的財産や人材、学生の力といった資源を活用したまちづくりを進めるため、「教育や文化の振興」、「まちづくり」、「生涯学習の推進」等に関して大学と連携協定を締結し、連携事業を行っている。

また、大学も地域連携センター等を設置し、公開講座をはじめ、小中高校生を対象とした科学教室、学生の地域活動やボランティア活動への参加支援等の社会貢献、地域連携の取組を行っている。

そうした動きをリノモ沿線の地域づくりに生かし、沿線大学及びその学生と協働して、市民講座や沿線活性化イベントの実施、学生による地域の情報紙作成や地域づくりの調査研究等を行う。

＜沿線市と大学の包括連携協定の状況＞

市	包括連携協定締結先
瀬戸市	(大学コンソーシアムせとに関する包括協定：2003.6.3) 愛知工業大学、金城学院大学、名古屋学院大学、名古屋産業大学、南山大学
豊田市	愛知学泉大学、愛知工業大学、中京大学、 日本赤十字豊田看護大学、豊田工業高等専門学校（2013.3.29）
日進市	名古屋外国語大学・名古屋学芸大学・名古屋学芸大学短期大学部（2010.2.1） 愛知学院大学（2010.4.22）、名古屋商科大学（2011.2.2）、 愛知淑徳大学（2012.5.18）、椋山女子学園大学（2012.8.8）、中部大学（2013.11.5）
長久手市	愛知県立芸術大学（2010.6.24）、愛知淑徳大学（2010.10.14） 愛知医科大学（2012.1.19）、愛知県立大学（2012.5.10）

⑥市民活動の活性化

愛・地球博において、若者、女性、高齢者等、様々な人々による市民交流が活発に行なわれた。引き続き、国際交流、文化・芸術、環境保全、地域安全等の様々な分野の市民活動が展開されるまちづくりを進める。

（市民活動の環境づくり）

- ・ 愛・地球博記念公園に整備された地球市民交流センターを NPO 等と協働で運営し、環境保全、生物多様性、エネルギー教育等の「環境」、国際交流、食育・地域交流等の「交流」をテーマとした団体向け体験学習プログラムや料理教室、工作教室等の一般向けプログラムを実施する。また、センター内の「体験学習室」、「多目的室」、「多目的スタジオ」等を NPO 等が実施するイベント、講演会、展示会等の場として提供する。
- ・ 瀬戸万博記念公園において、「市民参加」、「交流」、「自然との共生」を未来につなげていく交流拠点として、様々な市民活動が引き続き展開されるよう支援する。
- ・ 海上の森において、県と NPO、地元自治会、企業等の多様な主体が協働して、森林・里山の保全活動、里の歴史や文化の学習、自然環境教育等の取組を実施するほか、地域の森林・里山で活動する指導者を育成する。
- ・ 長久手古戦場公園駅前に整備するリノモテラス公共施設を拠点として、学生や NPO 等の市民活動の場づくりに取り組む。



瀬戸万博記念公園



海上の森におけるセミナーの様子

【主要施策一覧】 ～重点戦略2 地域づくり活動の活性化～

具体的な取組	2016	2017	2018	2019	2020
⑤沿線住民や沿線大学・学生と協働した地域づくり					
沿線住民と協働した地域づくりの推進	シンポジウムやワークショップの実施 八草まちづくり推進委員会におけるまちづくりの検討				
沿線大学・学生と協働した地域づくりの推進	市民講座や活性化イベントの実施 学生による地域情報誌の作成や調査研究の実施				
⑥市民活動の活性化					
市民活動の環境づくり	地球市民交流センター、瀬戸万博記念公園、海上の森における市民活動の支援				
	リニモテラス公益施設の整備		リニモテラス公益施設において、市民活動の場づくりに取り組む		

2 訪れたいくなる沿線づくり

重点戦略3 観光やイベントによる交流の推進

リニモ沿線には、愛・地球博記念公園、トヨタ博物館、愛知県陶磁美術館等、本県のみならず、全国や海外からも集客できる質の高い文化・レクリエーション施設が立地するほか、先端の研究開発施設や地域の歴史や文化、ポップカルチャー等の地域資源がある。

そこで、多くの人が活発に交流する地域づくりに向け、沿線施設のさらなる充実を図るとともに、地域資源を活用して沿線ならではの魅力の創出、沿線内外への発信を行い、リニモ沿線の観光交流を推進する。

【主要施策】

⑦愛・地球博記念公園の充実強化

2005年（平成17年）に開催された愛・地球博は、会期中の185日間に、国内外から2,200万人が来場し、活発な市民交流が行なわれるなど、この地域に大きな影響を与えた。

その愛・地球博長久手会場の跡地に整備された愛・地球博記念公園は、194.2haという広大な敷地に、各種スポーツ施設の他、「サツキとメイの家」など愛・地球博を懐かしむ施設もあり、年間約160万人が訪れる沿線の中心的な集客施設となっている。

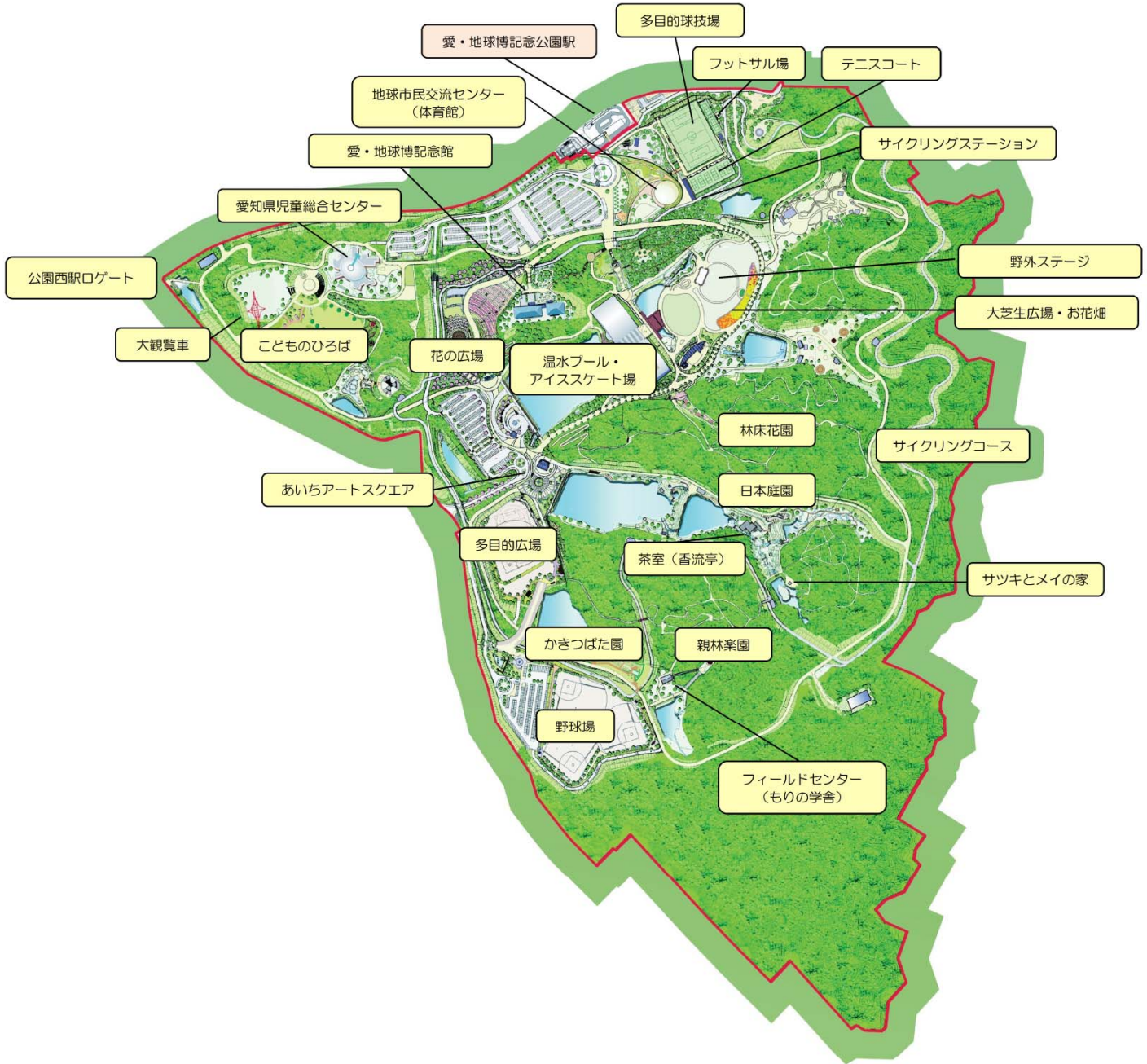
引き続き、園内施設の整備・充実を図るとともに、魅力あるイベントの開催等、万博の開催地という知名度を生かし、公園の賑わいづくりを進める。

（愛・地球博記念公園の整備やイベントの開催）

- 沿線における中心的な集客施設として、引き続き、キャンプ場（デイキャンプ場）等の県民が楽しめる施設を整備するとともに、公園の特徴を引き出しつつ、民間事業者の活用も検討しながら新たな魅力の創出に努める。
- 愛・地球博記念イベント「モリコロパーク春まつり・秋まつり」等のイベントや各種のスポーツ大会の開催のほか、新たに整備した野外音楽施設を活用した音楽イベントを実施する。
- 愛知県児童総合センターで、児童の健全育成の推進のため、人気の高い粘土を利用した体験プログラムや学校長期休業期間を活用した「あそびの企画展」の実施等、年間を通していつでも、年齢や対象を問わず誰でも参加できる「あそびのプログラム」を実施する。
- リニモの公園西駅周辺は、大型商業施設の出店予定等、今後、市街地整備が進んでいく地域である。2015年（平成27年）8月には公園西駅ロゲートを設置し、公園西駅から公園へのアクセス向上を図ったことから、公園西側エリアに位置する「こどものひろば」については、より一層の魅力向上や賑わい創出を図るため、民間のノウハウやユニークなアイデアを生かした新たな公園施設の設置等を検討する。

<愛・地球博記念公園の概要>

- 公園全体面積：約 194.2 ha
- 公園開園時間：8:00～19:00（11月～3月は18:30まで）
- 駐車場台数：約 1,800 台（北駐車場 1,057 台、南駐車場 392 台、西駐車場 362 台）



⑧地域資源の活用による魅力向上

日本で唯一の磁気浮上式リニアモーターカーであるリニモ、「知の拠点あいち」など最先端の試験研究機関、豊かな自然環境、陶磁器や自動車といったモノづくり技術のミュージアム、「小牧・長久手の戦い」などの歴史遺産、ポップカルチャーなど、この地域ならではの地域資源を活用して、沿線地域の魅力を向上させる。

(観光資源としてのリニモ活用)

- これまで愛・地球博の代名詞でもあるリニモは、動くパビリオンとして多くの人々がその技術を体感してきた。このリニモの乗車を観光の一つとして捉え、「滑らかな乗り心地」や「技術のすごさ」を実感する「リニモ体験ツアー」を実施する。昨今、アジアを中心とした人々の訪日が急増していることから、そうした訪日外国人もターゲットに、記念乗車証を発行するなど、リニモの魅力を発信する。
- 騒音が少ないという特性からリニモの高架には防音壁がないため、近くは沿線の田園風景や名古屋の夜景、遠くは鈴鹿山脈や猿投山まで見晴らすことができる。また、貸切やラッピングするサービスもあり、こうしたリニモの眺めの良さやおしゃれな車両を活用し、クリスマストレイン・合格祈願列車等の企画列車や演奏会・結婚式等のイベントの場としての活用等、より多くの集客を目指し、観光資源としてのリニモを積極的にPRする。
- さらには、車両基地見学の実施により小中学校の社会見学の受入を拡大する。



貸切りリニモ



リニモからの展望



リニモ車両基地

(試験研究機関における公開の実施)

- 「知の拠点あいち」において、研究内容に対する県民の理解や科学技術の普及啓発を図るため、科学技術展示コーナー、モノづくり体験コーナー及び新エネルギー普及啓発コーナーを設置し、見学者の受け入れや小中学生を対象とした科学教室、サイエンスフェスタ等を開催する。



新エネルギー普及啓発コーナー



こども科学教室



サイエンスフェスタ

- ・ 愛知県農業総合試験場では、農業に対する県民の理解を深め、農業における試験研究の役割と重要性を理解してもらうため、研究成果の紹介や研究施設の見学、農業や農産物に関連した実験の体験、生産物等の販売等の最新の農業技術を体感できる「農業総合試験場公開デー」を開催する。

(体験型学習の実施)

- ・ 沿線には、あいち海上の森センター、愛・地球博記念公園内のもりの学舎、平成こども塾等、自然とのふれあい、食や農の体験を通じて、楽しみながら学べる施設がある。

また、2013年(平成25年)6月には、新たに、愛・地球博記念公園内に、田畑や果樹園等の農業体験ができる里山実験フィールド「あいちサトラボ」の「農のエリア」がオープンした。

引き続き、それらの施設を拠点に、四季を通じて、豊かな自然の観察や自然の素材を使った工作、また農作業等の自然にふれあう体験型学習を実施する。



海上の森「森の楽校」

(沿線の歴史や文化・芸術の魅力向上)

- ・ 陶磁資料館南駅の周辺には、やきものを専門とする国内屈指のミュージアム「愛知県陶磁美術館」がある。愛知県陶磁美術館では、古代から現代までの国内外の陶磁作品を常設展示するほか、様々なテーマによって、幅広い分野の陶磁作品を紹介する企画展や特別企画展を開催していく。

また、陶磁文化の普及を図る取組として、陶芸教室や講演会等を実施するほか、南館において、「愛知のやきもの」の歴史や魅力を子どもたちに伝えることを目的とした展示を行っていく。

さらには、本県の陶磁文化振興の拠点施設として、あいちトリエンナーレを始め様々な文化芸術関連事業と連携を図るなど、にぎわい創出に取り組んでいくほか、訪日外国人の誘客を目指し、外国人対応の充実を図っていく。

- ・ 文化施設での交流活動を促進するため、長久手市文化の家を始めリニモやモリコロパークなどを会場に、親子向けの音楽イベント「おんぱく〜音のテーマパーク」を開催する。

- ・ リノモ沿線には、愛知県陶磁美術館の他にも、トヨタ博物館、名都美術館、愛知県立芸術大学や名古屋学芸大学等の文化・芸術に関連した施設が立地しているほか、古戦場公園に代表される「小牧・長久手の戦い」に関連する歴史遺産がある。これらの施設が連携したイベントの実施等により、多くの人々に、沿線の歴史や文化・芸術の魅力を知ってもらい、この地域全体の活性化と地域文化活動の振興を図る。

<愛知県陶磁美術館の概要>



本館

7つの展示室にて、縄文時代から現代に至るまでの日本のやきもの歴史や、外国陶磁、現代陶芸、全国のお窯陶磁資料等を紹介する常設展と多彩なテーマによる企画展を行う。



南館

2010年に子ども向けに全面リニューアル。2016年2月に展示リニューアルを実施し、「もっと伝えたい、愛知のやきもの」をテーマに、子どもから大人まで楽しく鑑賞できる展示へと生まれ変わる。



陶芸館

陶芸指導員の指導のもと、「作陶」や「絵付け」の体験ができる。

(ポップカルチャーを活用した地域活性化)

- ・ 近年、クールジャパンの一環として、アニメ、ゲーム、コミック、コスプレなどのポップカルチャーは大きな注目を集めており、ポップカルチャーが地域の魅力を向上させるツールとして期待が高まっている。これまで、リノモ沿線をポップカルチャーの発信地として「愛知ぽぶかる聖地化計画」に取り組み、知名度も定着してきたので、そうしたものを地域ブランドとして位置づけ、大学や企業等と連携し、ポップカルチャーを活用した沿線情報の発信やリノモの駅においてアーティスト・大学生が作品を発表・展示する「リノモアートステーション化計画」などを推進し沿線の賑わいづくりに取り組む。



(リニモ沿線活性化事業の実施)

- ・ リニモ沿線の文化・レクリエーション施設、試験研究機関、大学と連携し、ウォーキングイベントや体験イベントなどを共同で実施する。
- ・ リニモ沿線に集積している様々な大学の学生同士の交流が始まっており、地域全体で学生の活動を盛り上げるため、沿線大学が連携した地域活性化のイベントや交流事業を支援する。
- ・ リニモ沿線活性化事業の実施に際しては、新たな参加者の獲得を目指して、スマートフォン向けアプリやAR（拡張現実）技術、GPS機能等を活用した現地観光情報の提供や写真撮影、スタンプラリー等の取組を検討していく。

⑨広域連携による観光の推進

愛知県内には、リニア・鉄道館やトヨタ産業技術記念館等、「のりもの」や「モノづくり」といったリニモ沿線の施設と同様のコンセプトを持った観光資源がある。また、県営名古屋空港では、航空機に関する見学者受入拠点施設の整備も進められており、こうした観光資源と、リニモ沿線施設を結ぶモデルルートを開発することにより、県内はもとより、首都圏や海外からの訪日外国人も視野に入れ、沿線地域への誘客を図る。

(域外観光施設と連携した誘客の推進)

- ・ 沿線地域外の観光施設と連携し、のりもの観光や産業観光等のテーマで、外国人、ファミリー、女性等の利用者層を考慮しつつ、地域外の観光施設等と周遊する広域観光モデルルートを作成する。
- ・ 岐阜県と連携し、リニモ乗車を始めとしたリニモ沿線の産業観光施設を盛り込みながら、モニターツアーを実施し、両地域の産業観光施設のネットワークや体験型バスツアー等の旅行商品造成を目指す。
- ・ 2019年（平成31年）のラグビーワールドカップ等のスポーツ大会やその他のイベント等で愛知県を訪れる人々を沿線地域に取り込むための情報発信や観光ルートを検討し実行する。

(プロモーション活動の実施)

- ・ 広域からの誘客を図るため、名古屋駅や岐阜駅等の交通の要衝はもとより首都圏においても、リニモのキャラクターとして親しまれている「リニモたん」や沿線地域のキャラクター等を用いて、沿線地域の魅力を発信するなど、産学官が一体となったプロモーション活動を実施する。

				
愛知ぼぶかる聖地化計画のキャラクター「リニモたん」「ぼぶかる」「エネミィ」	瀬戸市イメージキャラクター「せとちゃん」	豊田市観光協会マスコットキャラクター「ももたファミリー」	日進市マスコットキャラクター「ニッシー」	長久手市広報ナビゲーター「クレーシガーナ」

⑩沿線情報の一体的な発信

リニモ沿線には、愛・地球博記念公園や古戦場公園等の県や市の施設のほか、トヨタ博物館、名都美術館といった多くの民間の施設があり、様々なイベントが開催されている。情報のワンストップ化を図り、地域外の人でも一目瞭然にわかるような情報発信を行う。

(各種媒体での情報発信)

- ・ 春休みや夏休み期間中に沿線地域で開催されるイベントを取りまとめた「リニモ沿線イベントガイド」や沿線地域のグルメやレジャースポット等の地域の魅力を紹介する「地域情報誌」を発行し、沿線内外の様々な施設やイベント等において沿線地域をPRする。
- ・ インターネットを活用し、フェイスブックページ「リニモとぴくす」やツイッターにより、沿線の魅力やイベント・観光情報をタイムリーに発信するほか、リニモからの車窓や沿線施設を紹介する動画「リニモの車窓から」を公開する。
- ・ 沿線地域の集客施設や交通機関では、訪日外国人向けに、多言語パンフレット等の作成を行っているほか、リニモの主要駅では、外国人観光客の利便性のため、駅構内でのWi-Fiサービスを開始した。増加している訪日観光客をリニモ沿線に取り込むため、沿線大学の留学生等と協力しながら、外国人旅行者が利用しやすいPRツールの作成を検討する。

＜リニモ沿線及び周辺の主な施設＞

所在市町村	施設名等	来訪者数等(人/年)	所在市町村	施設名等	来訪者数等(人/年)
瀬戸市	瀬戸万博記念公園	34,000	日進市	岩崎城址公園	45,509
	海上の森	95,800		五色園	—
	あいち海上の森センター	17,944		白山宮	—
	愛知県陶磁美術館	125,372		名古屋外国語大学・名古屋学芸大学口論義運動公園	221,253
	瀬戸蔵ミュージアム	34,828	長久手市	愛・地球博記念公園	1,586,500
	招き猫ミュージアム	25,220		古戦場公園野外活動施設	35,352
	瀬戸デジタルリサーチパークセンター	31,377		色金山歴史公園茶室	12,369
豊田市	豊田スタジアム	1,690,277		トヨタ博物館	244,385
	スカイホール豊田	477,604		名都美術館	31,830
	猿投温泉	310,946	長久手温泉ござらっせ	423,711	
	豊田市美術館	51,544			
	とよたエコフルタウン	65,507			

資料：愛知県「平成26年観光レクリエーション利用者統計」、各市統計書等から作成
来訪者数等は平成26年1月から12月までの累計。

ただし、豊田市美術館は平成26年1月から9月までの累計。岩崎城跡公園、名古屋外国語大学・名古屋学芸大学口論義運動公園は平成26年4月から平成27年3月までの累計。

＜リニモ沿線及び周辺の主なイベント＞

市町村	行祭事・イベント	来訪者数等(人/年)	市町村	行祭事・イベント	来訪者数等(人/年)
瀬戸市	せともの祭	490,000	日進市	岩崎城 春まつり	25,000
	せと陶祖まつり	73,000		にっしん夢まつり	130,000
	来る福招き猫まつりin瀬戸	84,000		にっしん市民まつり	27,500
	陶のまち瀬戸のお雛めぐり	112,000	長久手市	ながくて市民まつり	18,000
	せと・まるっとミュージアム大回遊	33,000		古戦場桜まつり	8,000
	せとなつ	94,000		モリコロパーク夏まつり	20,200
豊田市	豊田おいでんまつり	507,580		トヨタ博物館クラシックカー・フェスティバル	20,000
	拳母まつり	100,000	モリコロパーク春まつり	25,000	
	小原四季桜まつり	153,198	モリコロパーク秋まつり	26,300	

資料：愛知県「平成26年観光レクリエーション利用者統計」から作成

【主要施策一覧】 ～重点施策3 観光やイベントによる交流の推進～

具体的な取組	2016	2017	2018	2019	2020
⑦愛・地球博記念公園の充実強化					
愛・地球博記念公園の整備やイベントの開催	キャンプ場等の整備、イベント等の開催、児童総合センターでの体験プログラムの実施、「こどものひろば」の魅力向上の検討				
⑧地域資源の活用による魅力向上					
観光資源としてのリニモ活用	リニモ体感ツアー、企画列車・イベントの場としての活用、車両基地見学の実施				
試験研究機関における公開の実施	「知の拠点あいち」における見学受け入れ、科学教室等の実施 農業総合試験場公開デーの実施				
体験型学習の実施	あいち海上の森センター：里と森の教室、調査学習会、 森林・里山の指導者育成等の実施 もりの学舎：インタープリターと歩くもりのツアー、工作体験等の実施 あいちサトラボ「農のエリア」：稲作、野菜、果樹作り体験 平成こども塾：農作業や料理体験、工作体験の実施				
沿線の歴史や文化・芸術の魅力向上	愛知県陶磁美術館における常設展、企画展、講演会、やきもの体験の実施 親子向け音楽イベント「おんぱく」の開催 文教施設連携による交流イベントの開催				
ポップカルチャーを活用した地域活性化	ポップカルチャーを活用した情報発信等 リニモアートステーション化計画の推進				
リニモ沿線活性化事業の実施	リニモウォーキング、わくわく体験リニモツアーズ、夏休みリニモ親子教室等の開催 沿線大学学生等による地域活性化事業への支援 スマートフォン向けアプリやAR技術等を活用の検討				
⑨広域連携による観光の推進					
域外観光施設と連携した誘客の推進	モデルルートの作成、PR等 岐阜県と連携した産業観光施設のネットワーク化 イベント等で沿線周辺に訪れる人の誘客の検討・実施				
プロモーション活動の実施	プロモーション活動の実施				
⑩沿線情報の一体的な発信					
各種媒体での情報発信	リニモ沿線イベントガイドの発行（春休み期間、夏休み期間）				
	地域情報誌等の作成				
	フェイスブックページ「リニロコとびっくす」の運用 ツイッターの運用 リニモ沿線紹介動画「リニモの車窓から」の公開				

重点戦略4 研究開発機能の充実

リニモ沿線には、愛知県立大学、愛知工業大学、愛知県農業総合試験場、豊田中央研究所等、科学技術に関連する拠点施設が立地しているほか、陶磁資料館南駅の北側には、「知の拠点あいち」の整備を進めている。

また、沿線地域の外においても、概ね30分移動圏内に、名古屋大学、名古屋工業大学、名城大学、豊田工業大学、産業技術総合研究所中部センター、自動車関連企業が集積する西三河地域を有し、研究機能と産業利用機能が一定の範囲に集積している。

そこで、「知の拠点あいち」を中心にさらなる研究集積を図るとともに、沿線地域内外に関わらず、大学、研究機関、民間企業等と相互連携を密にし、多様な共同研究や実証実験を展開し、研究開発による活発な交流を推進する。

【主要施策】

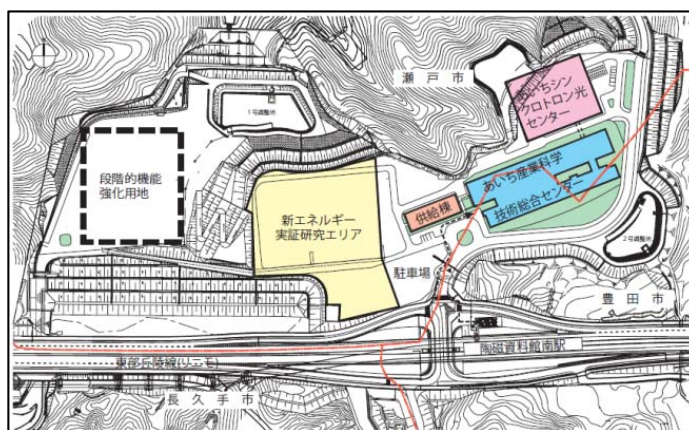
①国機関等の研究施設の誘致

「知の拠点あいち」を中心に研究開発環境を向上させるため、「あいち産業科学技術総合センター」、「あいちシンクロtron光センター」に続く先端的な研究施設として、国機関等の研究施設の誘導等に向けた取組を推進する。

（「知の拠点あいち」への研究施設の誘致）

- ・ 「知の拠点あいち」の最先端の研究環境と近接する産業集積を強みに、段階的に機能強化を図っていく用地を中心に、国機関等の研究施設の誘致を図る。

< 「知の拠点あいち」の配置図 >



⑫先端研究開発や実証研究の推進

「知の拠点あいち」や愛知県農業総合試験場において、産学行政が連携した研究開発を進めるとともに、「知の拠点あいち」の「新エネルギー実証研究エリア」などでの実証研究を推進する。

(研究プロジェクトの推進)

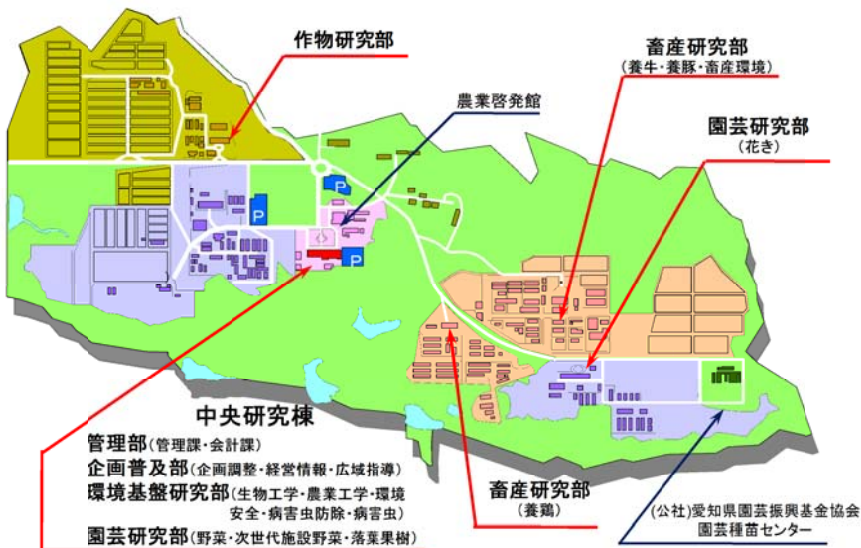
- 「知の拠点あいち」において、大学等の研究シーズをもとに、企業による事業化・製品化を図るため、産学行政が連携した共同研究開発プロジェクトを推進する。

＜「知の拠点あいち」における産学行政連携研究開発の研究成果＞

難加工性材料の 高性能切削加工技術	食品検査装置	1滴の血液から病気を 検査する半導体デバイス
		
加工した燃焼器ケース	近赤外光異物検査装置 [提供] 豊橋技術科学大学福田研究室	半導体イメージセンサ [提供] 豊橋技術科学大学澤田研究室

- 愛知県農業総合試験場においては、重要性の増す食料問題や食の安全等の課題に取り組むため、大学や企業と連携して、新品種・新技術の開発に取り組み、成果の普及を図るとともに、ICT等の先端技術の導入等による生産性の向上に向けた取組を推進する。

＜愛知県農業総合試験場の配置図＞



農業総合試験場本場 中央研究棟

＜愛知県農業総合試験場の研究成果＞

卵用なごやコーチンを開発	カットやスライスに適したトマト品種「サンドバル」を開発	うどんに適した小麦品種「きぬあかり」を開発
		

(実証研究の推進)

- ・ 「知の拠点あいち」の「新エネルギー実証研究エリア」では、実証研究フィールドに加え、太陽光発電設備と蓄電池を備えたスマートグリッド⁶を企業に提供することで、新エネルギー関連技術の実用化を支援する。
- ・ 愛・地球博記念公園において、大学、研究機関等に対し、ロボットの実用化に向けた実験の場を提供する。

【主要施策一覧】 ～重点戦略4 研究開発機能の充実～

具体的な取組	2016	2017	2018	2019	2020
⑪国機関等の研究施設の誘致					
「知の拠点あいち」への研究施設の誘致	国機関等の研究施設の誘致				
⑫先端研究開発や実証研究の推進					
研究プロジェクトの推進	産学行政が連携した共同研究開発プロジェクト等の推進				
実証研究の推進	「知の拠点あいち」における企業の新エネルギー実証研究の推進				
	愛・地球博記念公園におけるロボットの実証実験の推進				

⁶ 電力の流れを供給側・需要側の両方から制御し、最適化する次世代送電網

3 住みたくなる・訪れたくなる沿線づくりを支える交通基盤

重点戦略5 交通基盤とネットワークの強化

北に名古屋鉄道瀬戸線、南に豊田線の真ん中を走るリニモは、名古屋の都心につながる名古屋市営地下鉄東山線と、西三河地域と尾張東部地域をつなぐ愛知環状鉄道に連絡するという、名古屋圏の鉄道網の中で極めて重要な役割を果たし、結節点である八草駅は三河方面から名古屋への玄関口という機能も担っている。

そこで、沿線住民の安全安心な日常生活や、都市間、地域間の人の交流を支える交通基盤の充実とネットワークの強化を図る。

【主要施策】

⑬公共交通の利便性向上

リニモ沿線地域外との交流や連携の推進のため、広域交通ネットワークの利便性向上や、沿線住民が、快適な日常生活を送ることができるよう、駅に直結する乗合バス、コミュニティバス等フィーダー交通の維持・充実を図る。

(交通アクセスの改善)

- リニモを中心とした広域的な交通ネットワークの形成において、リニモと愛知環状鉄道との乗り継ぎの利便性向上が重要である。そこで、リニモにおいて導入のICカード乗車券システムについて、愛知環状鉄道においても導入を検討する。
また、八草駅における乗り継ぎのさらなる改善のため、運行ダイヤの見直しなどを検討する。

(フィーダー交通の充実)

- リニモ沿線には乗合バスや沿線市のコミュニティバスが発着し、長久手古戦場駅や八草駅では行政区域を越えたコミュニティバスの運行も行っている。引き続き、地域公共交通会議等において生活交通の確保・維持に向けた調整を行い、リニモ各駅を発着するバス路線の維持・充実に努める。
- 日進市では、鉄道や路線バス、コミュニティバス、タクシーなどが一体となった公共交通網の形成を目指して、コミュニティバス路線の再編に取り組んでいく。特に長久手古戦場駅と名古屋市営地下鉄赤池駅を結ぶ路線は、両駅に大型商業施設の立地が予定されているなど交流人口の増加が予想されることから、南北の幹線軸として、バスの運行時間やダイヤの充実を図り、民間の路線バス化に向けた調整を行う。
- リニモの開業により、沿線大学への交通アクセスが向上し、リニモ駅を発着とする沿線大学のスクールバス等も運行されるようになった。引き続き、さらなるスクールバス等のリニモ駅からの運行を働きかける。

- ・ 沿線住民の生活の足の確保や沿線地域に訪れる人の周遊の利便性向上のために、リニモ駅を拠点とした電気自転車や超小型 EV⁷などを活用するモビリティシェアリング⁸等の調査、検討を行う。

(長久手古戦場駅の交通結節機能の強化)

- ・ 長久手古戦場駅周辺は長久手市の新たな顔として、大型商業施設の立地やリニモテラスの整備が進められているほか、日進市の「北のエントランス」として、日進市からの新たな人の流れが見込まれるなど、沿線におけるフィーダー交通の拠点としての役割が期待されており、バスやタクシーの乗降場、またキス&ライド⁹スペースや駐輪場等の駅前広場の整備を行った。今後は、新たに整備が予定されている愛知医科大学病院バス停等との連携等、長久手古戦場駅の機能強化を検討する。

(公園西駅の利便性向上)

- ・ 公園西駅周辺土地区画整理事業地は、県道力石名古屋線で南北に分断されているので、安全で円滑な移動が可能となるよう駅北側の商業地域と駅南側の住居地域を繋ぐ横断歩道橋を整備する。
また、公園西駅の東側に新たな改札口を設置し、横断歩道橋に接続することで、公園西駅利用者の利便性向上を図る。
- ・ 公園西駅南側に設置される駅前広場と県道田名名古屋線を結ぶ「公園西駅南通り線」を整備することにより公園西駅へのアクセス向上を図る。

⁷ 超小型電気自動車。「超小型モビリティ導入に向けたガイドライン」(平成 24 年 6 月国土交通省都市局・自動車局)では、超小型モビリティを「自動車よりコンパクトで小回りが利き、環境性に優れ、地域の手軽な移動の足となる 1 人～2 人乗り程度の車両」と定めている。

⁸ 自動車・自転車等の車両を所有するのではなく、共同で活用すること

⁹ 家族に鉄道駅、バス停まで送迎してもらい、そこから公共交通機関に乗り継ぐ移動方法

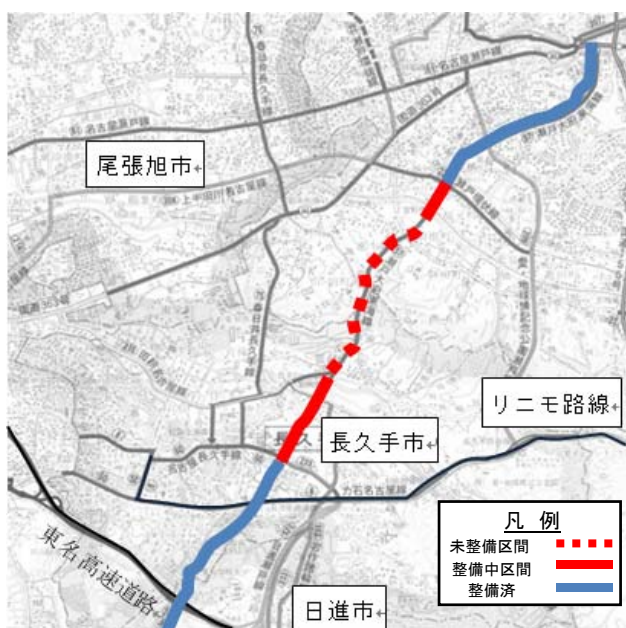
⑭道路交通網の形成

愛・地球博を契機に、東海環状自動車道や名古屋瀬戸道路等の高規格道路が整備され、広域からの沿線地域への交通アクセスは飛躍的に向上した。また、今後も沿線地域と周辺地域を結ぶ幹線道路の整備を進め、沿線地域における道路交通網を形成し、交通アクセスの向上を図る。

(県道瀬戸大府東海線の整備)

- ・ 県道力石名古屋線は沿線地域を東西に延びる基盤道路であり、これと接続する県道瀬戸大府東海線の整備を推進する。

<瀬戸大府東海線 道路整備予定図>



※瀬戸大府東海線は、名古屋の東部から南部における環状機能を持ち、名古屋市から放射状に伸びる主要幹線道路を結節して、広域ネットワークを形成すると同時に、沿線市町の連携強化を図る重要な幹線道路である。現在、東海市・大府市・瀬戸市・長久手市において、整備を進めている。

⑮「エコ モビリティ ライフ」の推進

自動車や公共交通、自転車、徒歩をかしこく使い分けるライフスタイルの普及、定着を目指し、公共交通の利用促進やパーク&ライド駐車場の運営等を行なう。

(公共交通の利用促進)

- ・ リニモ沿線の宅地開発や大型商業施設の立地等にともない、沿線道路の渋滞への影響が懸念されるところである。沿線地域への新たな住民や学生に対し、市役所や大学の窓口において啓発チラシを配布するなど、通勤通学や余暇活動での公共交通の利用を促していくとともに、沿線の集客施設と連携して来場の際の公共交通の利用の呼びかけを行っていく。
- ・ 2015年(平成27年)9月12日から11月8日まで、愛・地球博記念公園で開催された「全国都市緑化あいちフェア」期間中、道路交通渋滞の緩和を図るため、普通自動車に係る駐車場使用料の額の改定や臨時のパーク&ライド駐車場の設置、公共交通利用者に対するインセンティブ付与(企画展入場料の割引)を実施した。今後も、大規模イベントの開催時等において、公共交通による公園への来訪を促す取組を検討する。

(パーク&ライド駐車場の運営)

- ・ パーク&ライド駐車場は、周辺住宅地から駅までのアクセスを向上させ、リニモを生かした集約型まちづくりを進めていくのに有効である。引き続き、愛・地球博記念公園駅や八草駅にパーク&ライド駐車場を運営するほか、新たなパーク&ライド駐車場の設置の可能性について検討する。

(交通系 IC カードを活用した商業施設との連携)

- ・ リニモに2016年(平成28年)春導入の交通系 IC カードを活用し、沿線の大型商業施設と連携したリニモ利用者への特典付与等、リニモ利用による来店を促すための取組を検討する。

【主要施策一覧】 ～重点戦略5 交通基盤とネットワーク強化～

具体的な取組	2016	2017	2018	2019	2020
⑬公共交通の利便性向上					
交通アクセスの改善	ダイヤ等の乗継利便性の向上にむけた調査・研究				
フィーダー交通の充実	コミュニティバスの運行 地域公共交通会議での検討 沿線大学へのリコモ駅からのスクールバス運行の働きかけ モビリティシェアリングの可能性の検討				
長久手古戦場駅の交通結節機能の強化	新たな交通結節点の整備に向けた調整・連携				
公園西駅の利便性向上	歩道橋、駅前広場、公園西駅南通り線の整備等				
	新たな公園西駅改札口の整備				
⑭道路交通網の形成					
県道瀬戸大府東海線の整備	道路工事（早期供用を目指す）				
⑮「エコ モビリティ ライフ」の推進					
公共交通の利用促進	沿線住民や学生への公共交通利用促進の啓発 沿線施設や沿線イベントでの公共交通利用の働きかけ				
パーク＆ライド駐車場の運営	愛・地球博記念公園駅北側パーク＆ライド駐車場の運営 八草駅前パーク＆ライド駐車場の運営 新たなパーク＆ライド駐車場設置の可能性検討				
交通系 IC カードを活用した商業施設との連携	リコモ利用者への特典付与等の検討				

4 主な取組エリア

主要施策の主な取組エリアを示す。

重点戦略	主要施策	主な取組エリア						
		古戦場 長久手	芸大通	公園西	愛・地球博 記念公園	陶磁資料館南	八草	海上の森
1 集約型まちづくりと自然環境の保全	①駅を中心とした概ね1km圏内の計画的な市街地整備の推進	●	●	●			●	
	②市街化を進める地域の機能充実	●	●	●				
	③森林・農地等の緑の適正な維持管理	全域での取組						
	④水や緑のネットワーク形成の推進			●				
2 地域づくり活動の活性化	⑤沿線住民や沿線大学・学生と協働した地域づくり	全域での取組						
	⑥市民活動の活性化	●			●		●	●
3 観光やイベントによる交流の推進	⑦愛・地球博記念公園の充実強化			●	●			
	⑧地域資源の活用による魅力向上	全域での取組						
	⑨広域連携による観光の推進	全域での取組						
	⑩沿線情報の一体的な提供	全域での取組						
4 研究開発機能の充実	⑪国機関等の研究施設の誘致					●		
	⑫先端研究開発や実証研究の推進		●		●	●		
5 交通基盤とネットワーク強化	⑬公共交通の利便性向上	全域での取組						
	⑭道路交通網の形成	●						
	⑮「エコ モビリティ ライフ」の推進	全域での取組						

【参考】リニモ沿線概況図

- 【凡例】
- 文化・娯楽施設
 - 教育・研究施設
 - 公園・史跡
 - 大規模商業施設
 - ◎ 市役所・町役場
 - 市町界
 - 市街区区域
 - ≡≡≡ 鉄道
 - 構想の対象地域
 - 自動車専用道路
 - 主要道路(国道)

